



かけはし

〒611-0021
京都府宇治市宇治里尻36-26
TEL 0774-25-2500(代)
FAX 0774-25-2353
URL <http://www.takedahp.or.jp/>

No.50 平成19年11月30日発行

365日、患者さんと二人三脚の
リハビリテーション

リハビリテーション科特集

理念

- 思いやりの心

基本方針

- ブリッジ・ザ・ギャップス
- 患者さんの権利の尊重
- 信頼の医療に向けて
- 地球にやさしい環境づくり

環境方針

1. 省資源・省エネルギー
2. 廃棄物の減量化
3. リサイクルの推進
4. 安全性・快適性の推進
5. 環境広報活動の推進



感覚統合室

京都府内病院で唯一の 「感覚統合室」を設置

新病院開設に伴い、感覚統合室が新設され、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が協力しながら対応しています。小児に対するリハビリには以前から取り組んでいましたが、感覚統合室が設置されたことで、より質の高いリハビリが可能となりました。感覚統合室は養育施設などではみられませんが、病院内での設置は京都で唯一です。

感覚統合の対象となるのは、就学前から中学入学前までの方で、学習障害や自閉症などの発達障害を抱えていらっしゃる方が中心です。粗大運動を通じた療法士との関わりの中で、心と体の発達を促していきます。

回復期リハビリテーション病棟では 365日リハビリを行っています

脳血管障害や骨折などを発症されて、1～2カ月後の時期に、集中的なリハビリテーション訓練を行うことが最も効果的です。回復期リハビリテーション病棟では、リハビリテーション訓練を365日理学療法士が行っています。

患者さんに対して、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、ソーシャルワーカーが共同で、リハビリテーションプログラムを作成し、目標を立てて、集中的なリハビリテーションを提供いたします。



明るく開放的なリハビリテーション室

新導入の機械と施設

リハビリテーション室の拡張に伴い、設備も充実しました。感覚統合室や日常生活動作の訓練を行う畳敷きのADL（日常生活動作）室、裸足でリハビリができる個室も設置しています。新しく入ったサイベックスという機械は、筋力を測定することができます。障害の回復期やスポーツ復帰の目安に活用されています。

その他、座ったまま足を動かすことができるストリングスエルゴという機械では、サドルをまたぐ必要がないので、高齢者の方にも楽に計測や運動を行ってもらうことができます。



下肢の筋力を計測する
サイベックス

ストリングスエルゴは
座位のまま計測運動が
可能です。



リハビリテーション科には現在、理学療法士（PT）10名、作業療法士（OT）7名、言語聴覚士（ST）4名の計21名のリハビリ専門スタッフが在籍しています。うち女性スタッフ15名、男性スタッフ6名で患者さんへのサポートを行っています。



リハビリテーション科スタッフ一同

専門スタッフでの 情報共有を図っています

理学療法士、作業療法士、言語聴覚士はそれぞれ専門性が分かれているため、どうしても専門性の垣根を越えたコミュニケーションが取りづらい状況ができてしまいます。しかし、当科は武田病院グループの中でも規模は小さめであり、スタッフ同士顔を合わせる機会の多い職場ですので、ひとつのスタッフルームに集まったときには、患者さんの情報交換ができるような環境を目指しています。

患者さんとスタッフとのコミュニケーションはもちろんですが、専門スタッフ同士が情報を共有し、よりよいコミュニケーションを図ることが、結果的に患者さんがよい環境で意欲的にリハビリに励んでいただけることができるのではないかと考えます。

リハビリテーション科 副主任 言語聴覚士 平岡 恵（ひらおか めぐみ）

言語聴覚士は、脳卒中や頭部外傷などによる脳損傷後に起こる、言語障害、高次脳機能障害、摂食・嚥下障害を持つ患者さんへのリハビリを主に行っております。また、小児の言語発達外来にも取り組んでいます。

患者さんやそのご家族と全人的な関係を築き、その方にとって本当に必要なことは何かを一緒に考え、専門的な立場からお一人お一人に合わせたリハビリを提供できるよう努めています。



リハビリテーション科 主任 回復期リハビリテーション病棟担当 理学療法士 山口 智子（やまぐち ともこ）

私は主に、回復期リハビリテーション病棟を担当させていただいています。明るい環境の中で、患者さんひとりひとりに合わせた歩行訓練や移乗動作訓練などの機能訓練を行っています。社会や家庭復帰を目的とした患者さんに対して、専門スタッフからなるチームで一日でも早く元の生活に戻れるように、サポートさせていただいています。



リハビリテーション科 係長 理学療法士 山内 紀子（やまうち のりこ）

急性期から回復期リハビリテーション病棟に移られる患者さんがたくさんいらっしゃいますので、私は外来と入院の急性期の患者さんに対するリハビリを主に行っています。

当院でPTが対応する疾患としては、整形外科系の疾患が増えています。現在、スポーツ整形を専門としている医師がおりますので、以前と比べるとスポーツ整形や整形外科疾患の患者さんが増加している状況で、スポーツ外傷の若い患者さんも増えてきております。

基本的には、私たちは患者さんの手助けをする側ですので、患者さんが自ら「リハビリで機能を回復させたい」と意志を持ってもらえるようにサポートしていきたいと考えています。



リハビリテーション科 主任 作業療法士/ハンドセラピスト 松本 教子（まつもと きょうこ）

私は整形外科における手の外科ハンドセラピーを担当しています。ハンドセラピーとは骨折、腱損傷、末梢神経損傷など、上肢の疾患すべてのリハビリを指します。また、小児分野においては、感覚統合療法、主に学習障害の子供さんたちに対するリハビリを行っています。回復期リハビリテーションにおいては、主に中枢疾患の患者さんに対し、自宅復帰を目標としたリハビリをさせていただいております。

上肢の疾患における重症例になると、上腕からの複合組織損傷などがあり、上肢機能は非常に細かく、難しい分野であり、いくら勉強しても足りないと感じる毎日です。

